

番 号	氏 名	抱 負
11	白石 順二	私は平成25年度に初めて理事に選出していただき、平成25年度と26年度の2年間は企画委員長として、本学会の国際化に向けた取り組みや、会員の研究倫理意識の向上、分科会雑誌の電子化及び、分科会活動の活性化、本学会の組織再編成、新しい会員登録システムの構築などの事業について提案し、それらの事業を実現可能とするために努力してきました。組織再編成や新しい登録システムについては、平成27年度からの実施に関して、理事会で承認は得たものの、まだ、十分な完成図が描けていない状況です。しかし、10年後、20年後の学会を見据えて、世界的にも胸を張ることができる学術団体としての基礎を築くための足掛かりが出来たと思っています。学会の国際化や組織再編、部会活動の在り方など、学会を変える大きな流れはまだ始まったばかりですので、今後も、もし、理事として選出していただけるのであれば、学会のために尽力したいと思っています。
12	小倉 明夫	日本放射線技術学会は、さらなる飛躍を目標に、今後の展開に向けて事業を行っております。ただ、やみくもに突っ走るだけでなく、会員を中心に、会員の皆さんに納得頂ける学会事業を熟考しながら、会員目線で事業を推進していきたいと考えております。
13	錦 成郎	今季は長年担当していた学術分野を離れて、財務担当の業務執行理事として約2年間務めさせて頂きましたが、2014年3号の巻頭言に書いたように、世の中の動きを見据えてスピード感を持って学会運営を行うことが益々重要になっていると切に感じています。今後は、関連学会(学問領域)との横糸をさらに密にして学際化を推進することにより、研究の裾野が広がって研究内容の充実につながると同時に、論文の質の向上に貢献すると考えます。さらに、国際化の必要性和その意義を会員に十分に広報して、国際化という言葉だけが独り歩きしないように、常に会員を適切にナビゲーションすることが重要です。さらに、学術大会は各大会の特徴を明確にして、特に秋季大会は国内開催の学術大会のメリットを生かせるように、教育プログラムの充実や日本語で討論できる環境を提供するなど、国際化に偏らない全体のバランスに配慮した運営が求められていると考えます。
14	佐藤 智春	私は診療放射線技師として長年医療現場において放射線技術を以て患者様のためにベストを尽くしてまいりました。日本放射線技術学会は、私の放射線技術のスキルアップには欠かせない学会であり、本学会がなければ今日の私は存在しなかったと思います。今こそ、本学会の運営に理事として参加し、これまでのご恩返しをするとともに、私の専門分野だけでなく、すべての放射線技術の向上と発展に尽力を尽くしたいと思い立候補いたしました。もし理事になりましたら、これまで地方部会で企画運営してきたセミナーや学術大会の経験を生かし、学術大会等のグローバル化に対応した政策にも微力ながらお力になりたいと思います。何とぞ、よろしくお願いいたします。
15	上田 克彦	私は平成19年から学会理事を拝命し、現在は学術交流委員長および中国・四国部会担当理事、大会開催委員として活動させていただいております。過去には第69回総会学術大会実行委員長、第1回国際放射線技術科学会議(ICRST)実行委員長、RPT誌担当理事、画像分科会委員として学会運営に関係させて頂きました。来年度から学術交流委員会は組織再編成計画で国際戦略委員会と渉外・広報委員会にその役割を引き継ぐ予定ですが、今後も、日本の優れた放射線技術を世界にひろめるため、会員のために国際学術交流や海外派遣事業を推進したいと考えています。また、中国・四国部会においても部会理事として学術情報提供、各種研究会・セミナーを通じて会員へ支援を行い優れた研究を生み出す環境整備や、本学会員の優れた放射線技術研究を支援したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。